

府中町ふるさと歴史散歩

〔第42回〕

大化の改新と律令制と安芸国の成立⑥

百済は昔から倭国と親交の深い国であった。その百済は660年に唐・新羅連合軍によって滅亡させられたが、この情報を聞いた倭国は百済復興を全面的に支援することを決定した。倭国に滞在していた百済王子の余豊璋を王に立て百済復興軍を編成して朝鮮半島に向かった。この百済の役(663年)の際には、備後国・讃岐国・伊予国・筑紫国から二万数千人もの兵士が動員された。これら大量の兵士・武器・軍糧を運ぶ軍船の建造・調達に瀬戸内海に面する諸国が深く関わったことは十分考えられる。

しかし、倭の水軍は白村江の決戦で脆くも全滅状態の惨敗を喫するのであった。このときの様子を中国の歴史書の『旧唐書』では次のように記されている(一部意訳している)。「唐の水軍と倭の水軍が」四

たび戦つて(唐が)捷ち、倭国の舟四百艘を焚き、その煙と炎は天にみなぎり、海水は倭兵の血で赤く染まった。」

唐は倭の水軍の半数にも満たない170艘の船で勝利している。なぜ倭の水軍は惨敗したのであろうか。それは唐の軍船の秘密にある。唐の軍船は、『武経総要』によると全長120m、高さ30m(八階建てのビル相当)の三層の楼閣からなる巨大な船で投石機や拍竿(近寄つた船に石を落とす装置)や弩などの強力な兵器を搭載していた。

倭の水軍の船も、わが国の在来型の船ではなかったと考えられる。それは『日本書紀』の白雉元年(650年)に、倭漢直懸らが安芸国に派遣されて「百済船二隻」を建造している記事がある。これは百済から伝えられた外洋航海にも耐え

うる大型の船、いわゆる本格的な「構造船」を建造したということであるが、これらの船では唐の巨大な戦艦の前にはなす術もなかったのが実情であろう。

これらの時代背景からも、安芸国の造船技術は十二分に活用されたと考えて間違いない。また、安芸国は山が深くて材木が調達しやすいため、造船には適した場所でもあった。よって、国庁の置かれた地は、西条盆地のような在り豪族の拠点的な地域を最初から選定したのではなく、水陸両面の交通の要衝を選んで設置されたと考えられる。その地が今の府中町であった。

府中町文化財保護審議会会長

横田 禎昭

問い合わせ

教育委員会生涯学習課

☎ 286-3272

人の動き



4月1日現在(前月比)

人口	51,917(-23)
男	25,545(-28)
女	26,372(+5)
世帯	21,382(+30)
面積	10.45km ²

町の花
つばき

町の木
くすのき

お悔やみ

(敬称略)

氏名(年齢)	住所	死亡日
中村美恵子(84)	本町三丁目	3/6
原田 幸松(74)	八幡二丁目	3/11
前田 幸人(92)	山田四丁目	3/12
古田 泰教(67)	山田一丁目	3/14
木村 重子(96)	みくまり二丁目	3/17
泉尾 保子(82)	みくまり二丁目	3/20
土手 譲(82)	浜田本町	3/21
長行事昭子(78)	山田一丁目	3/22
丹羽ツヤコ(88)	鶴江二丁目	3/23
岩田 幸子(79)	宮の町三丁目	3/25
池田キノエ(95)	柳ヶ丘	3/29

※この「お悔やみ」欄には、「町広報紙掲載申出書」の提出があった場合のみ掲載しています。

問い合わせ

地域振興課広報聴担当

☎ 286-3127

「広報ふちゅう」等のカセットテープ版・点字版のご案内

「広報ふちゅう」「議会だより」「ふれあい府中(社協だより)」のカセットテープ版・点字版を、希望者に無料で貸し出し・提供しています。

あなたのまわりの視覚に障害のある方に是非お知らせください。

申し込み・問い合わせ 府中町社会福祉協議会 ☎ 285-7278 FAX 287-3467

